

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人 関記念 柘の木会		
事業所名	認知症老人グループホームうらら		
所在地	下都賀郡壬生町北小林812-1		
自己評価作成日	令和 3年 12月 14日	評価結果市町村受理日	令和4年3月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 4年 1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は静かで緑豊かな環境にあり、同法人の特別養護老人ホーム・老人保健施設が隣接し、特別養護老人ホームとは行事・避難訓練等で交流し、緊急時にも協力が得られる連携を図っています。「個々の尊厳、人格を尊重し、その人らしい生き方を支援する」という理念を全職員が理解し、トータルな接遇を身につけており、穏やかで安心した生活が送れるよう傾聴・寄り添い・敬う心を大切にしております。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から外出や面会等の制限をさせて頂いておりますが、事業所内で出来る楽しみ、特に要望にそったお食事を多く取り入れ、喜びを共有しております。職員は感染症予防対策の意識を緩めることなく、責任ある行動に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、町北部の大学病院の近くに位置し、雑木林と同法人が運営する特別養護老人ホームに囲まれ閑静で落ち着いた暮らせる環境にある。特別養護老人ホームとは合同で避難訓練を実施したり、災害時には協力しあうなど連携が図られている。職員は事業所理念や接遇委員会が毎月設定する目標を念頭に置き、利用者の尊厳に配慮するとともに、思いや意向を丁寧に汲み取り日々寄り添った支援に努めている。コロナ禍のため外出や面会の制限がある中、食事が大きな楽しみであるため、松花堂弁当風に器や盛り付けを変えたり、お楽しみメニューやテイクアウトを取り入れるなど、より楽しみとなるよう工夫している。職員の毎日3回の検温をはじめ、こまめな消毒や換気、利用者も含めたマスクの交換、アクリル板の設置など新型コロナ感染防止にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所、法人の各基本理念、毎月の接遇目標や介護マニュアルを毎日朝礼時に唱和し、職員全体で共有意識づけをして、実践につなげている。	法人理念や事業所理念、接遇委員会が毎月設定する目標をリビング等に掲示するとともに、毎日唱和して意識づけをしている。目標に対する反省や気づいた点など自己評価を行い、振り返りながら日々の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様コロナ禍の為、感染症予防対策として、地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組む事が出来なかった。	自治会に加入しており、地域の神社やお寺のお祭りに招かれ一緒に食事をするなど交流を図っていたが、コロナ禍のため現在は中止となっている。また、中学生との交流や各種ボランティアの来訪も難しい状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティアの方々、中学生の福祉体験、運営推進会議等で取り組んでいたが、交流が出来ない為、消極的な現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に続き、コロナウイルス感染症予防対策にて書面開催とした。直接の話し合いは出来ないが、寄せて下さった意見等を反映させるよう努めている。	民生委員や地域包括支援センター職員、町担当者、家族、利用者の参加を得て2か月ごとに開催していたが、一昨年のコロナ禍以降は書面開催となっている。委員には利用者の状況やヒヤリハット、行事等の報告をするとともに意見等をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催の相談や確認、介護保険に関する問い合わせ等、電話にて連絡を取り合っている。又、厚生労働省よりの通知等、随時メールを頂いている。	運営推進会議を通じて事業所の状況を積極的に伝えるとともに認定更新や家族の転居に伴う住所認定など、わからないことがあれば電話連絡して助言を得るなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて正しく理解し、接遇の取り組みによりご利用者の習慣、気持ちを尊重し、好ましい言葉遣いを心掛け、言葉による拘束を含め、身体拘束を行わないケアを実践している。	内部研修で理解を深めるとともに、禁句や好ましい言葉を記載した接遇マニュアルを毎日唱和して抑圧的にならないよう言動にも注意している。不穏や帰宅願望のある利用者には傾聴したり、落ち着くまで敷地内を一緒に歩いたり寄り添った支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や接遇改善委員会の取り組みによって言葉に気をつけ、敬う気持ちを大切にすることを学び、虐待は絶対にあってはいけない事と認識し、言葉遣い、支援が適切か注意し合える職場環境である。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて知識習得に努めている。必要と考えられるご利用者やご家族と話し合いができるよう関係者と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書で確認しながら説明している。料金改定の際は都度、文書にて説明し同意を頂いている。退居については理由を明確にし理解を図り、不安のないよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者にはアンケートによる聞き取りや普段の会話の中で気軽に意見や要望が表せるようにコミュニケーションを大切にしている。コロナ禍でご家族との交流が少ない状況な為、忌憚のない意見が伺えるよう文書にて声を聞かせて頂き、コロナウイルス感染症予防対策にご理解、ご協力を得てその範囲内で運営に反映している。	利用者の意見や要望を普段の支援の中で汲み取るとともに、毎年アンケートを行いその結果は家族にも伝えている。家族に対しては毎月「うらら通信」と利用者ごとに生活の状況を記した「うらら便り」を送っている。また、書面で家族懇談会を開催するなど信頼関係を深め、意見の出やすい環境づくりに努めている。意見や要望は可能な限り反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面接の他、随時意見を聞く機会を設け、話しやすい環境作りに努めている。家族や子供の行事に配慮した勤務体制や業務改善等、職員の提案や気づき等可能な限り検討し運営に反映させている。	業務の効率的な運営など職員意見は基本的には各ユニットリーダーに上げ、管理者とともに随時時間をとって話し合っている。管理者は職員の様子を見て声かけを行うなど意見の出やすい雰囲気づくりに努めている。年2回の個別面談も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状態、努力、実績等を把握し、業務管理シートの提出、各自面接を行い、給与、賞与に反映している。各委員会活動、行事企画運営、居室の担当を持ち、やりがいに繋がるような環境を整えている。成果を認める声掛けを忘れず、コミュニケーションを図るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には新任者研修、新人用マニュアルに沿って力量を把握しながら進めている。外部研修は段階に応じて受講出来るよう配慮している。実践リーダー研修に1名が受講し修了した。コロナウイルス感染症予防にて外部研修を控えたが、内部研修は確保し向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の総会や研修会、同業者の研修受け入れの中での交流を強化していたが、コロナ禍で直接の交流を控えた分、機会が足りなかった。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅での生活で本人がどんな事で困っているか、何か不安な事はないか等伺いながら、自宅での生活と同じような暮らしができ、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に話を伺う中で、今不安に思っている事など要望を伺い、どのような支援方法が望ましいか考え、ご家族に寄り添いながら話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要な事はどんな事か、ご利用者、ご家族と話をしながら見つけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の望む暮らしをモットーに寄り添いながら共感したり、近くで見守りながらご利用者一人ひとりの生活を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、うらら通信、うらら便りにて状況報告をしている。コロナ禍の為、面会ができず不安になるご家族もいるが、職員からの話を聞き安心されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年同様コロナ禍で面会や外出の自粛をお願いし、感染症予防対策を行った為、馴染みの場所等に行ったり、お会いする事に積極的な支援が出来なかった。電話や手紙での関係継続に努めた。	コロナ禍以前は知人の面会や馴染みの美容室等への外出支援をしていたが、現在は自粛せざるを得ない状況である。家族に年賀状を出すよう働きかけたり、手紙のやり取りや電話の取り次ぎなどの支援をしている。昨年10月には感染対策をしたうえで一定の条件のもとに、利用者全員が家族との面会を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりに目配りし、お互いに助け合い、寄り添いを大切に、関係が保てるよう席や居場所の配慮を行い、職員が関係を支えられるよう努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の暮らし方の継続性に繋がるよう、これまでの支援に対しての工夫等、情報を伝えている。又、今後も相談に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの望む暮らしは色々あるが、施設内で可能な事は本人の要望を伺いながら実施している。困難な事については職員間で話し合い、その方の思いに近づき、寄り添った支援を心掛けている。	ほとんどの利用者が思いを言い表すことができるので、日頃から丁寧に聞き取るよう心掛けています。しぐさや表情などいつもと様子が違う場合は、積極的に声掛けを行っている。どんな声掛けをするとよいのかを個人の記録や送りノートに記入し、共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を伺い、入居後も今までの暮らし方に近い生活が送れることで安心に繋がるよう、入居前どんなサービスを利用していたか把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごしている。趣味の継続、体操、棟内歩行、個別で生活リハビリを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご利用者、ご家族の意見を踏まえ、担当者会議で半年ごとに見直し、モニタリングは3ヶ月に1回実施、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成している。	担当者がアセスメントと家族の意向の確認を行い、管理者、ケアマネジャー、ユニットリーダー、担当者からなるサービス担当者会議で検討し、現状に即した介護計画を作成している。3か月ごとにモニタリングを行い6か月ごとの介護計画の見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各々が行う日課について記録に記入している。気づいた点など工夫し、より良い支援に繋がるよう連絡ノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応したサービス提供が望ましいがコロナ禍の為、現状は難しい。終息した際にはさまざまなニーズに応じたサービスを取り入れて柔軟に支援していきたい。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと協働している。外出は自粛中の為、地域の理容店に訪問して頂き利用、病院や銀行等へは必要に応じて出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医として、受診はご家族対応を基本として協力を頂いているが、急変時は職員が対応している。状態変化時は主治医への報告書を作成し連携を図り、支援に繋がっている。希望により歯科往診もある。	これまでのかかりつけ医を主治医として、家族支援のもとで受診している。受診に当たり利用者によってはバイタルや生活の状況を記した報告書を家族に渡すとともに、受診後は家族から状況を聞き取り情報の共有に努めている。新型コロナワクチンやインフルエンザ予防接種は特別養護老人ホームの嘱託医に一括してお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には同法人施設の看護師に相談、かかりつけ医や調剤薬局にも相談、指示を頂きながら、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後の状態をご家族へ伺ったり、直接病院と連絡を取り合い今後の治療方針、今の状態確認を行い情報交換している。病院、ご家族と退院計画を話し合いながら連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化終末期に向けた話しは説明している。又、段階ごとに意向を確認しながら共有を図り方針を検討している。特養への住み替えも視野に入れ説明している。	入所時に重度化、終末期の対応について説明するとともにADLの低下など段階的に説明や意向の確認をしている。重度化の進行により、特別養護老人ホームへの移行や病院へ入院する利用者が多い。	今後、さらに重度化や介護度が進行することが考えられることから、事業所として出来ること、出来ないことについて改めて話し合うとともに、看取りについても急な看取りに備え勉強会をするなど知識を深めるような取組を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、急変時や事故発生時に適切な行動が取れるよう研修で技術を習得し、いざという場面で活かせるようシュミレーションも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルをもとに内部研修として災害研修を実施している。又、地域の消防団へはいつでも連携が取れる体制を整えている。独自の避難訓練に加えて、年間計画に基づく隣接施設との合同避難訓練を実施、緊急連絡網による電話連絡の訓練実施、カンファレンスを行い改善、修正している。	年2回特別養護老人ホームと合同で法定の消火・避難訓練を実施している。事業所独自にも年3回程度自主訓練を実施している。消防団とはいつでも連携が取れる体制を整えている。事前に知らせることなく緊急連絡網を使った訓練も実施した。利用者の情報など緊急時の持ち出し品も整備するとともに、防寒シートやたすきなども用意してある。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の朝礼で接遇マニュアルを唱和し意識向上に努めている。ご利用者は苗字に「さん」づけで呼ぶのは基本である。入室時の声掛けやノック、トイレ案内時の声掛けに羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。	接遇マニュアルを毎日唱和し、抑圧的な言動にならないよう注意しあっている。トイレという言葉を使わないとともに、失敗したときはさりげなく交換するなど羞恥心にも配慮している。利用者には「さん」づけを基本としているほか入室時には声掛け、ノックを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの得意不得意、好み等を把握した上で、本人の意向希望が聞き出せるよう言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意向を尊重し、その日を過ごしている。交流支援、庭内散策等ご本人の意向を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出前に化粧や好みの洋服に着替えたり、入浴後の衣類もご利用者と一緒に好みの物を選んだり、好きな髪型に整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事にお楽しみメニューやテイクアウト等ご利用者の好きな物を伺い、食事が楽しみなものとなるよう提供している。ゆっくり味わって頂けるよう職員も同じ時間で距離を保ち食している。又、食後も食器洗いや食器拭き等も行っている。	食材は業者からの調達であるが、職員が毎食調理している。食事時はコロナ禍のため職員は少し離れているが、見守りながら同じ時間帯に摂っている。器や盛り付けを変えたり、お楽しみメニューやテイクアウトを取り入れるなど、より楽しみとなるよう工夫している。塩分制限のある利用者には、ノンオイルドレッシングを使ったり味噌汁を半分にしたりと、きめ細かな対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェック、職員全員が把握し食事形態の変更や嗜好品を提供している。少しでも多く摂取して頂けるように、又、カロリー不足栄養の偏り、水分不足にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な方には職員がブラッシングのお手伝いをしている。又、就寝時には義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方は自分のペースで行いその他の方は時間や行動パターンを把握し、トイレ案内し気持ち良く排泄できるように支援している。プライバシーに配慮し対応にあっている。	ほとんどがトイレでの排泄ができています。利用者によって時間帯を把握して早めの誘導をしている。排泄確認や夜間に限りポータブルトイレを利用する方もいる。声掛け誘導でスムーズな排泄に繋がり、紙パンツが外れた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、主治医と連携を取りながら便秘薬で調整し、毎朝のヨーグルト、牛乳も摂取している。散歩、体操、棟内歩行を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりご利用者のペース、タイミングに合わせて、ゆったりと入浴できるように配慮している。拒否のある方には、無理強いせず、時間をずらしたり会話を楽しみながら、気持ちよく入浴できるように工夫している。	週3回午後入浴を基本としている。ゆっくりと入れられるよう配慮し、会話が弾んだり昔ばなしが出ることもある。季節のゆず湯や利用者によっては入浴剤を使用することもある。拒否者には担当者や時間を変えて声かけするなど工夫している。どうしても嫌がる場合は無理強いせず、清拭と下着を交換し清潔を保つよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを観たり、読書をしたり、就寝前は特にリラックス出来るように好きな事をして、安眠に繋がるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬説明書をファイルし、いつでも確認、把握できるようにしている。又、症状の変化があった時は主治医に指示を仰ぎ迅速に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく行える家事手伝いをして頂き、役割を持ち、張り合いのある生活を送って頂いている。庭内散策や農園での野菜作り等、季節を感じられるように工夫し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為、外出の制限があり、希望に沿うことが出来なかった。天気の良い日には庭内散策や庭内お食事会を行い、近所のお花見や銀杏並木にミニドライブに行く等の外出支援を行っている。	以前のように遠出や宿泊外出は出来ないが、暖かい日には広い敷地内を散歩したり、近所の公園の桜やイチョウ並木を見にドライブに行っている。筋力や体力を維持するため、健康体操やラジオ体操、棟内歩行なども行っている。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしており、行事や外出の際や、必要な物や欲しい物があつた時に使用している。ご利用者はお金を預けている事に安心して		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望がある時、ご家族から電話があつた時等、お話できるよう支援している。又、携帯電話を持っている方は自由に連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下にはレクリエーションの時間に作成した季節の作品を飾っている。手すり、椅子、テーブル等の消毒、室温や温度調節を行い感染症対策に努め常に気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。	エアコンディショナーや加湿器で適切な温湿度の調整をしている。壁には利用者とともに作った貼り絵などを飾るとともに、季節が感じられるよう毎月飾り替えを行っている。こまめな消毒や換気、アクリル板の設置など新型コロナ感染防止にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係を配慮して、テーブルの席を配置している。ご利用者によっては場所を移動して、一人で落ち着いて過ごす事が出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ラジオ等本人の使い慣れた物を持ち込んで頂き、ご家族の写真やカレンダーを飾っている。安全に過ごせるよう家具の配置も考えている。	各個室は広く、ベッド、洗面台、エアコンディショナー、タンス、押入れが備え付けられている。利用者は使い慣れた寝具やテレビ、冷蔵庫、位牌などを持ち込んでいる。家族の写真やカレンダー、作品などを飾り居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物たたみや食事前の準備等、出来る方には積極的に出来るよう声掛けしている。バリアフリーで車椅子の自走の妨げにならないように、安全に過ごせる環境作りや、心地良く過ごせるよう配慮している。		